

音楽とセルロイド (ギターとピック)

セルロイドハウス横浜館には、オルガン・ドラム・ギター・マンドリン・アコーディオンなどの楽器が展示してあります。どの楽器にもセルロイドが組込まれています。

今回は、ギターについて考えました。ギターには、いろいろの種類がありますが、アコースティックギター (写真左) とエレキ・ギターに代表されます。



エレキ・ギターにも、いろいろの種類があります。ストラキャスター・タイプとレスポール・タイプの 2 種が最も多いようです。

上記写真で、左のアコースティックの音色は、そのまま人の耳に伝わります。しかし、エレキ・ギターは、シールドコードでギターとチューナー・アンプ (写真の黒い手提げ箱) を繋いで音が伝わるようになっています。

ギター演奏には、ピックという小物が必要です。ギタリストは、「ピック」を親指と人差指で軽くはさみ、弦を弾きます。

ピックには右写真のように、種々のピックがあります。このピックも、セルロイド製です。

ピックの事について、今年 8 月 23 日の読売新聞が次のような記事を載せていました



ので、大変感心いたしました。

先天的に右手がないギタリスト峰岸理沙さん（20）が、自らリーダーを務めるロックバンドで都内を中心にライブ活動を続け、今年6月には海外で初公演を行った。

父親手製の義手で演奏テクニックを身につけ、プロの道を切り開いた。バンドは女性4人でつくる「モス・イン・ライラック」。2013年10月に音楽仲間と結成し、峰岸さんは「Lisa13」とのアーティスト名で活動、ピンク色の髪に黒を基調とした奇抜な服装で、重々しく激しく演奏をする。



峰岸さんは生まれつき右手首から先がない。ギターを手にしたのは小学校6年の時。3年間ためたお年玉で購入した。

最初はギターを床に置き、琴をひくように左手でコードを抑える練習を繰り返した。そんな娘を見た母礼子さん（47）は「ギターを弾ける様にしてあげたい」と義手を探し続けてだが繊細でパワフルな動きにも耐えられる義手は見当たらなかった。

その様子を見た父一美さんは（53）は「自分が作る」と決め、ホームセンターで材料を集め、試行錯誤を繰り返して、ギターをかき鳴らすピックを付けた義手を完成させた。

峰岸さんの技術はみるみる上達し、中学卒業後、プロミュージシャン講師がいる都内の高校に進学。今では“5代目”義手が「右手」となり違和感なく弾くことができるようになったという。バンド結成後は曲作りも担当。



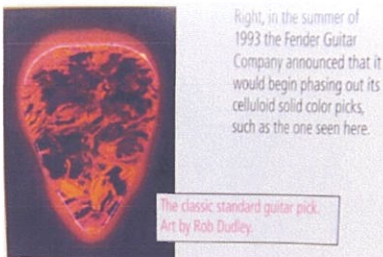
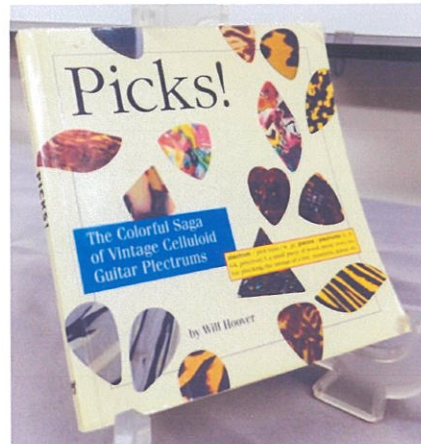
Lisa13（峰岸理沙）さんのホームページを見ますと歌詞が全部英語です。綺麗な写真が沢山掲載されて楽しくなります。ところで、理沙さんの愛用のピックが気になりました。多分写真のような親指に挿む（サムピック型）のもの、と思います。

最近、日本ではギタリストのライブが盛んです。そこではギタリストの名を記したピックが乱れ飛んでいます。

セルロイドのピックは、何時ころ作られたのでしょうか。その答えがアメリカ

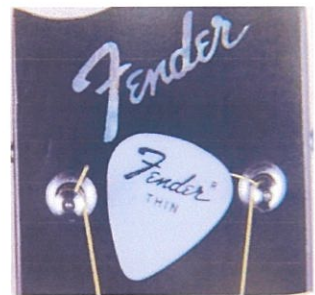
で発行された、右写真の Picks! という本に、次のように書いてあります。

Chapter1 米国ではピックはギターにかかせない重要なパーツである。ピックがなければ音楽は始まらない。アメリカ基準で、No.351 又はフェンダーピックと言われる三角形で厚み 0.71 ミリのセルロイドが最初のスタートで、一般のピックと称されるものは、他の材料製であるが、所謂セルロイド製ピックが主流であった。



写真右側 1993 年、フェンダーギター会社がセルロイド製からプラスチックに切り換えを発表した。

左側写真 Rob Dudley によるセルロイドピックに代わる材料については 1930 年代から 1940 年代にかけて多く



の試行錯誤があった。

材料としてはダチョウ、ワタリカラス、鷲、象牙、繊維、骨、ココナッツ、石、黒檀、カゼイン、真鍮、亀の甲羅、スチールが対象となった。又、これ以前には発明家はロープ、サンドペーパー、ラバープラグ、指輪などさまざまな形状のものをトライした。

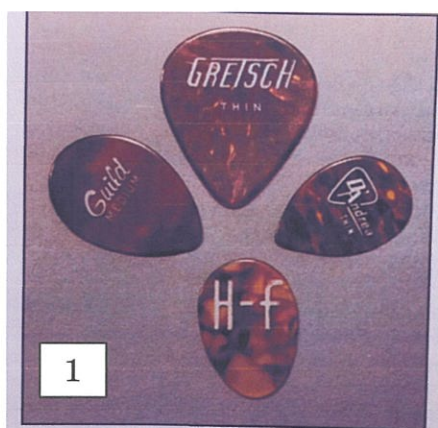
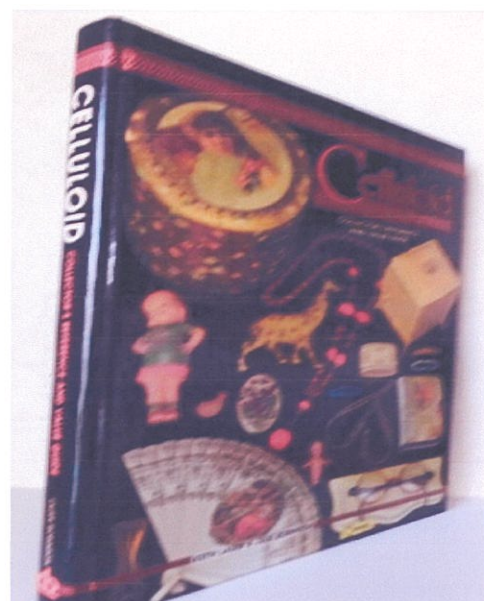
最終的にはセルロイドに落ち着いたが、各材料メーカーはそれぞれ自社製品として材料を販売した。例えば、上記さまざまな種類のものに比較して Fiberloid, Viscoloid, Herculoid 等があり素晴らしい性質を示した。一言でいえばエレガンスに富む材料であった。

chapter2 は、セルロイドの発明者ジョン・ウエスレー・ハイアットとセルロイドについての詳細な記述です。しかし、ハイアット自身がピックの加工に携わらなかったため省略いたします。

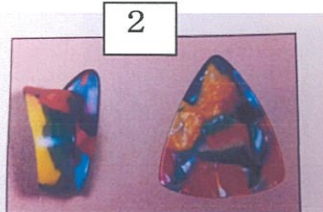
Picks の冊子は、Chapter13 までの内容、15×15 ㌢のサイズです。活字が小さく難読です。しかし現在、ピックに関する専門書が見当たりませんので、この本を翻訳した A4 版のコピー綴りを横浜館に用意いたします。

次頁 (Pg 4) 右の写真「SELLULOID」のタイトルの本は、横浜館・岩井館長の友人ケース・ハウエル氏によってアメリカで発刊されました。A4 サイズ、277 頁のセルロイドコレクション写真集の豪華版です。セルロイドの発達史、

セルロイド製玩具・用具類の参考書です。250～253
 頁が Celluloid in Musical Instruments の項目に
 なっていて、Pick の解説があります。



1
 The four imitation tortoise shell picks illustrated here include at top center a Gretsch thin guitar plectrum; clockwise: a small D'Andrea thin mandolin plectrum (both of these picks were manufactured by D'Andrea - note the similarity in the pattern of the imitation shell); H-F mandolin pick; and a Guild medium mandolin pick. Various manufacturers used different patterns of celluloid. \$1.00 - \$2.00 each.

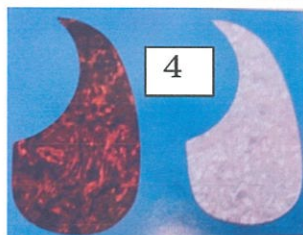


2



3

The three picks shown in the photograph include a small mandolin plectrum, a paperoid, and a long oval. All of the sizes, shapes, and colors look like Herco products, however each one is marked Japan. \$1.00 each.

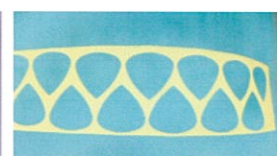


4

- 1、H-F、DA はマンドリン用。
- 2、豪華な親指に挿むピック。
(サムピック型)
- 3、カメの甲羅を真似たピック。
真ん中がマンドリン用。
- 4、ピックによる傷の防止ガード。
(アコギギター専用)



サムピック型
 ピック



ピック打ち抜き後
 のセルロイドの層

横浜館 3F ガラスケース中
 のピックの一部を二枚の表
 にしました。(黒枠の真ん中
 の一枚は、アルミニウム
 製です)



次稿は、ドラムの予定です《H27, 9, 29》